



# 高校訪問

## 取り組み紹介

③

美方

普通科2年  
「方言への関心」

### 人柄伝わる魔法の言葉

美方高のお昼の校内放送で「よっけ(たくさん)」「かなんわ(困ったわ)」など、方言丸出しで話す先生たちの放送は「方言ラジオ」。方言への関心を高めようという探究活動に取り組む北口心菜さん、田辺響音さん、中村光彦さん(普通科2年探究ホーム)3人の企画だ。「1年生からはリポート放送の要望もありました」。「方言は素の姿が見え先生に親しみがわくと。方言の効果ですね」。嶺南の方言編の次は嶺北の方言編を先生方をお願いする予定だという。

美浜、若狭町在住の3人は1年時に、福井県が実施した高校生による「福井の方言愛着ましましプロジェクト」に参加した。北口さんは県内の高校生と顔を合わせ、同じ福井県内でこんなに言葉が違うのかと改めて驚いたという。「おちよきんしねま、とか。えっ?って感じ」。3人はプロジェクトで作製する方言辞典の挿絵を担当、田辺さんは加えて方言を使った小説の挿絵も担当した。

「ふの悪い、って運が悪いくっていう意味の敦賀の言葉なのですが、亡くなった敦賀に住んでいたおじいちゃんが使ってたなあ」と田辺さん。「きょうとい、って怖いという意味の美浜のことばらしいのですが知らなくて」と中村さん。辞典制作を通して、3人ともに地元でも知らない方言があると知り、方言を残していかなくてはという思いが強くなったと話す。

1年の時にはアニメや漫画の名ゼリフを方言に直したカレンダー制作などを手掛け、今は方言ラジオのほか、方言辞典の充実に取り組みたいと考えている。活動を始める前の校内アンケートでは、方言に関心があるとの回答は約半数だった。「活動の終わりにもう一度アンケートして、どれぐらい上がったか確かめたい」と田辺さん。好きな地域の方言は「おおきにです」という。

(菊野昭彦)